

# 第29回 春日井市交響楽団 定期演奏会

2021.7.4 (日)  
春日井市民会館



## 主催

春日井市交響楽団

## 後援

春日井市、春日井市教育委員会、  
(公財)かすがい市民文化財団、  
中日新聞社、中部大学



春日井市交響楽団HP  
<https://kasugaiphil.org/>



着席されましたら、ご自身の  
座席番号をご記入ください。

列 番

# ごあいさつ



春日井市交響楽団  
名誉会長

春日井市長  
伊藤 太

## お祝いのことば

日ごとに夏の気配が濃くなる今日この頃、第29回春日井市交響楽団定期演奏会にご来場いただき、心からお礼申し上げます。

29回目を迎えるこの演奏会は、毎回多くの市民の皆様が音楽に親しんでいただく機会として、当市の音楽文化の振興に多大な貢献をしております。

新型コロナウイルス感染症対策に気を配り、娯楽を控え、長く静かに耐え忍ぶ日々のなか、心震わせる演奏に触れることは、心豊かな生活には欠かせない、深い感動と癒しを人々に与えてくれるものと願っております。

今回も、指揮者にオペラやミュージカルなど様々な分野で活躍されている井村誠貴氏を、コンサートマスターに中部地方を中心に積極的に演奏活動を行っている平光真彌氏を迎えます。交響楽団が奏でる爽やかなハーモニーが、観客の皆様を魅了することと期待しております。

本日の演奏会が盛況に開催されますとともに、出演者の皆様をはじめ関係各位の一層の御活躍を心から御祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。



春日井市交響楽団  
会長

中部大学 学長  
竹内 芳美

## ごあいさつ

第29回春日井市交響楽団定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

多くの皆様のご支援とご協力により、定期演奏会本番を迎えることができましたことを心から感謝申し上げます。

本日の演奏プログラムは、皆さまおなじみのシューベルト作曲交響曲第7(8)番ロ短調「未完成」とブラームス作曲交響曲第2番ニ長調の2曲で構成しています。交響曲「未完成」はベートーヴェンの交響曲第5番「運命」、ドボルザークの交響曲第9番「新世界より」と並んで3大交響曲と呼ばれることがあるのはよく知られていますが、春日井市交響楽団として今回初めてシューベルトの交響曲に取り組みます。指揮は、2012年より当団をご指導いただいている井村誠貴先生にお願いしております。また、平光真彌さんを客演コンサートマスターにお迎えし、演奏会をさらに盛り上げていただきます。

井村先生を始め、諸先生方の熱意溢れるご指導により、団員たちは演奏技術のレベルを上げ、本日の演奏会のために一丸となって練習を続けてまいりました。ステージで日ごろの練習成果を存分に発揮されるものと期待しております。皆さま、どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

これからも当団は、音楽を通して春日井市の文化の発展に貢献してまいりたいと考えております。引き続き、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本日は第29回定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染拡大のため様々な催しが中止になっている中、当楽団も昨年は7月の定期演奏会が中止となり、恒例となっています年末の第九演奏会も中止となりました。したがって、本日の演奏会は約1年半ぶりの大きな舞台ということになります。緊急事態宣言の発令により練習会場として利用しているハーモニー春日井の利用ができなかったため、毎年1月から始めている定期演奏会の練習が2月末にずれ込み、演奏会直前の5月6月も予定通りの練習をすることができませんでした。また昨今の事情を考慮して、来場者の人数は定員の半分に制限をさせていただきました。このように、演奏会を開催するには厳しい状況ではありますが、演奏することができるよこびをご来場者の皆様とともに味わいたい、という思いから、今回、演奏会を開催させていただくこととしました。来年こそは、いつも通りに準備をして、いつも通りの演奏会が開催できるよう願うばかりです。

最後になりますが、当楽団の活動に当たりお力添えをいただいております春日井市、中部大学をはじめとした関係各位の皆様には、いつも以上にご協力をいただきました。深くお礼申し上げます。また、昨年は演奏会が開催されない中、継続して賛助会員にご加入いただきました皆様により感謝申し上げます。本日はできる限りの演奏をお届けしたいと思います。ごゆっくりとお楽しみください。

## プロフィール

### 指揮 井村 誠貴 Masaki Imura



指揮者。1994年大阪音楽大学コントラバス科卒業。在学中よりオペラ指揮者として各地で研鑽を積む。オペラレパートリーは50演目を超え、中でも喜歌劇楽友協会におけるJ.シュトラウスⅡ「ウィーン気質」の邦人初演は注目を集めた。2001年イタリアに留学。現地ではAs.Li.Coの北イタリア・オペラ公演ツアーに同行し、副指揮者として高い評価を得た。2013年には年間オペラ公演回数が日本人第1位になる。管弦楽では、京都フィルハーモニー室内合奏団、大阪交響楽団、オペラハウス管弦楽団、京都市交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団等を客演。さらにOsaka Shion Wind Orchestra (旧大阪市音楽団)、シエナ・ウィンド・オーケストラ等の吹奏楽団との関係も深くその分野でも注目を集めている。ミュージカルでは「レ・ミゼラブル」「マイ・フェアレディ」「ラ・

カージュ・オ・フォール」等のロングラン公演を指揮。また、岩崎宏美や、南こうせつ、夏川りみとの共演や、キダ・タローとのコンサートも話題となっている。2014年には、自身の企画により「ベートーヴェン振るマラソン!」と題して、1日でベートーヴェンの全交響曲を1人で指揮。そのギネス級の活動は大きな話題となった。2011年東日本大震災を受け、毎年チャリティコンサートを開催。9回の演奏会で5,400万円を超える義援金を届けた。指揮を湯浅勇治氏をはじめ、松尾葉子、広上淳一、辻井清幸の各氏に師事。現在、オーケストラMFI指揮者。春日井市民第九演奏会音楽監督、関西音楽人のちから『集』代表。

### 客演コンサートマスター 平光 真彌 Shinya Hiramitsu



愛知県立芸術大学音楽学部卒業。2005年、同大学大学院音楽研究科修了。中村桃子賞受賞。ヴァイオリンを青山泰宏、大久保ナオミ、福本泰之、Ewald Danel、岡山芳子の各氏に師事。指揮を紙谷一衛氏に師事。第11回日本クラシック音楽コンクール大学生の部全国大会第3位。第1回宗次ホール弦楽四重奏コンクール第1位。併せて、聴衆賞、オーナー賞も獲得。2007年、2010年及び2012年小淵沢室内楽セミナーにて最優秀カルテットとして「緑の風 音楽賞」受賞。2012年には講師特別賞も同時受賞。これまで、プラハ放送交響楽団等ソリストとして多数のオーケストラと共演。2000年から岐阜管弦楽団、2004年～2021年3月まで愛知室内オーケストラのコンサートマスターを務めるほか、神戸室内合奏団、中部フィルハーモニー交響楽団などの客演

コンサートマスターを務める。その他、ソロ、室内楽の分野でも中部地方を中心とし、積極的に演奏活動を行っており、クラシック音楽を親しみやすく身近に感じてもらうために、サロンコンサートを精力的に行い地域に根ざした音楽活動を展開している。愛知県立芸術大学非常勤講師。平成29年度愛知県文化選奨受賞。

### 春日井市交響楽団 Kasugai City Philharmonic Orchestra

春日井市交響楽団は1990年に創設され、市民の音楽愛好家を中心に「市民が演奏し、市民が聴く、春日井市民のオーケストラ」としての活動を続けてきました。愛称「カポ」(KAPO)は英字名称「KASUGAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA」の頭文字をとったもので、イタリア語の「カポ」(capo 頭・先頭に立つ者)の思いもあります。日曜日には市内外から集まった50名の団員が、西尾町にある「ハーモニー春日井」のホールで練習し、春日井市の音楽文化の原動力となるべく日々研鑽を積んでいます。

# プログラム Program

## シューベルト:交響曲第7(8)番ロ短調「未完成」

Franz Schubert (1797-1828) Symphony No.7(8) in B minor, "Unfinished"

第1楽章 Allegro moderato

第2楽章 Andante con moto

————— 《休 憩》 *Intermission* —————

## ブラームス:交響曲第2番ニ長調

Johannes Brahms (1833-1897) Symphony No.2 in D major, op.73

第1楽章 Allegro non troppo

第2楽章 Adagio non troppo

第3楽章 Allegretto grazioso (Quasi Andantino)

第4楽章 Allegro con spirito

指 揮 井 村 誠 貴

演 奏 春日井市交響楽団



終演後、アンケートにぜひご協力ください。

※QRコードを読み取るとWebでご回答いただけます。

# プログラムノート

## 《交響曲第7(8)番ロ短調「未完成」》

シューベルトは、31歳という若さでこの世を去った。この「未完成」と言われる曲は、シューベルトの死後37年後に発見された全2楽章の交響曲である。なぜ、未完成という名がついたのか。その理由は、シューベルトが3楽章の続きを書き始めていたからとされている。シューベルトは少年時代に児童合唱団（現在のウィーン少年合唱団）に入って教会で歌っていた経験もあり、歌曲の作曲で人気を得ていた。当時は、交響曲が評価されなければ作曲家として認められない。そのような時代背景があるため、より完成度の高い交響曲に仕上げる必要があった。

このプレッシャーの中、シューベルトは曲の調性を決めるにあたり、ロ短調を選んでいく。ロ短調は響きにくさがゆえに悲しみや不安を引き立てる。当時、交響曲では滅多にみられない調性である。

「未完成」は、ほとんど直しの跡がないことから一気に書かれたものと推測され、シューベルトが頭の中で出来上がった音楽を紙面に書き写したと思われる。この曲はベートーヴェンやモーツァルトのクラシック音楽から変化した、初期ロマン主義の音楽を作り出したシューベルトの代表作である。

### 第1楽章 Allegro moderato

低弦楽器の旋律により、先の見えない暗闇にいるような感覚に陥る。続く第一主題は、美しくも悲しい木管楽器の旋律が哀愁漂う。そして、平和な世界を連想させるチェロによる第二主題が始まる。暗い印象のロ短調から一転して明るい長調の旋律がガリと曲調を変えるも束の間、突然ロ短調の悲しみが再び襲いかかる。

この楽章では、場面転換が多いことが聴いて分かる。導入部の旋律が回帰して終わることにより、今までになかった形式とされる。これはシューベルトが、クラシック音楽の時代から初期ロマン主義の音楽を始めた主要人物と言われる理由だろうか。

### 第2楽章 Andante con moto

この楽章は1楽章のロ短調から移行しホ長調の明るく美しい世界観に引き込まれる。この楽章では曲の調性が揺れ動く様がお楽しみ頂けるだろう。

コントラバスのピッツィカート下降音階の導入部の後、高弦楽器に空から降りてくる光を連想させるような旋律が現われる。明るいホ長調の中に苦痛や不安が顔をのぞかせ、転調により木管楽器の旋律がより美しく聞こえる。金管楽器による力強い音により曲調が一変したと思いきや、高弦楽器や木管楽器により聞いたことのある旋律が形を変えつつも再度登場する。

### 第3楽章 Allegro

演奏会では演奏されることのない楽章である。最初の9小節のみオーケストレーションされ、残りはピアノ譜の下書きのみが残されている。

(Cb. 大矢 光知留)

### 楽器配置図

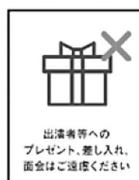
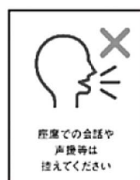


※チューバはブラームスのみ

※音響等の関係で配置が変更になる場合があります。

## 新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのお願い

お客様自身の安全、他のお客様の安全を守るため、特に以下の点について順守していただきますよう、お願いいたします。



## 《交響曲第2番ニ長調》

ブラームス交響曲第2番。この曲はブラームスが20年もの年月を経て完成させた交響曲第1番の翌年に、わずか4ヶ月という短期間で完成させたと言われている。その前の交響曲第1番が何故20年も時間がかかったかという、彼にとってベートーヴェンという存在がとてつもなく偉大な存在だったからである。ベートーヴェンが最後に作曲した交響曲第9番を超える交響曲を作曲する為に緻密にハーモニーや旋律を計算し、ブラームスの交響曲第1番が発表され、それはやがて『ベートーヴェン交響曲第10番』と呼ばれるようになっていった。

ブラームスにとって、ベートーヴェンの曲編成は自身の曲編成の基本であり、今回の交響曲第2番も編成は基本的にベートーヴェンと同じである。しかし、ベートーヴェンとは異なる点がある。それはチューバを交響曲で使用し、かつ今までベートーヴェンやブラームスの他の交響曲で使用されてきたコントラファゴットを使用していないという点である。

金管楽器のコラールをより重厚に表現する為と思われるが、是非チューバが登場するには注目してほしい。また、この交響曲第2番は南オーストリアのケルンテン地方の避暑地ヴェルター湖畔のペルチャッハにてほとんどが完成された。交響曲第1番とは違い、のびやかな音楽に満ち溢れていることから『ブラームスの田園交響曲』とも言われている。

### 第1楽章 Allegro non troppo

ニ長調。この楽章は2つの主題からなるソナタ形式でできている。まず重要なのが冒頭の低弦楽器が奏でる「リード#ーレ」である。この2度音程の動機が交響曲全体の基本的動機であり、さまざまな部分で用いられている。その動機の後にひとつ目の主題でホルンの牧歌的なメロディーが奏でられ木管楽器へ繋がっていく。弦楽器の小刻みな旋律の後に、ティンパニロールを伴ったトロンボーンとチューバの小さなコラールをはさみ、第1主題と同じような優しい旋律がヴァイオリン、フルートと繰り返され、第2主題へ移る。

第2主題はヴィオラとチェロの哀愁のメロディーから始まり、それが木管楽器へと移っていきながら音楽が力強く盛り上がってくる。フルートのカナリアのような旋律の裏にヴァイオリンが第2主題の旋律を奏で、木管楽器へと移り呈示部が終わる。展開部がホルンによる第1主題から始まり、それが木管楽器へと受け継がれ第2主題の変形を交えながら音楽が発展していき、再現部へ移る。再現部ではオーボエが第1主題を奏でる一方でヴィオラが対旋律を奏でている。そして、ティンパニロールの後、チェロとヴィオラの第2主題が力強く再現され、クライマックスのコーダへと発展していく。コーダでは次第にテンポが遅くなっていき、ブラームスが見た湖畔のような自然の息吹あふれるメロディーになるが、不穏な雰囲気となり、ティンパニの雷鳴が轟く。ホルンの長い感動的なソロの後、テンポは元に戻り、少しだけ名残惜しくなる。そして、温かな和音で静かに終わる。

### 第2楽章 Adagio non troppo

ロ長調。この楽章はチェロの長調だが陰のある物悲しい、下行していく第1主題とファゴットの上行する対旋律から始まるアダージョ楽章。4分の4拍子だが、実は4拍目から始まっており、ブラームスの醍醐味と言える演奏者と聴者との拍子感のズレを一緒に楽しんでいただきたい。また、この主題はブラームスが「自分の生涯で一番美しい旋律」と語ったと言われるくらい対旋律が豊かで、情緒溢れる旋律が様々な楽器で繰り返される。第2主題は嬰へ長調、8分の12拍子へと転調し、木管楽器のシンコペーションによって波のような音楽となっている。そして、また第1主題チェロとファゴットが再現部として現れ、楽章の最後に弦楽器の優しい旋律の中でティンパニがリズムを刻み、静かな和音で終わる。

### 第3楽章 Allegretto grazioso(Quasi Andantino)

ト長調。この楽章はABABAという変則的な小ロンド形式を取り入れている。Aの部分が4分の3拍子でオーボエの一度聴いたら忘れられない可愛らしい主旋律が他の木管楽器を伴って響わたる。ペルチャッハの自然の感動と心地よさをオーボエが表現している。可愛らしい牧歌的な音楽は弦楽器のスタッカートから軽快な音楽へと変わり、これがBの部分となる。4分の3拍子から4分の2拍子へと変わり、弦楽器の刻みの後に木管楽器が呼応し躍動感のある音楽へと変わっていく。そして、最後にAが再現された後にまた静かな和音で終わる。

### 第4楽章 Allegro con spirito

ニ長調。この楽章は、2つの主題から構成されるソナタ形式で書かれている。第1主題は弦楽器のユニゾンの弱々しい旋律から始まる。ここにも2度音程の動機が用いられており、管楽器が加わり、音楽が一気に華やかになっていく。ティンパニの雷鳴のような音が轟くと爆発的に音楽の盛り上がりを見せる。第2主題はイ長調に転調しヴァイオリンとヴィオラの穏やかな旋律が流れる。この主題はゆっくりと盛り上がりを見せ、呈示部が終わる。展開部では、第1主題がそのまま出てくるが、すぐに形を変え短調になる。盛り上がった後、静かなトランキエロになり木管楽器と弦楽器が3連符で応答する。木管楽器と低弦楽器の和音が続いた後、弦楽器の第1主題が現れ、再現部に移る。

コーダは金管楽器のコラールで始まる。トランペットが煌びやかにクライマックスを彩る。このコラールの中でトロンボーンの高音とチューバの低音が荘厳なハーモニーを醸し出し、トランペットに呼応するように全ての楽器が燃えるようにエネルギーを爆発させ、伸びやかなフィナーレで幕を閉じる。

(Fig. 大竹 佳乃)